学校法人 兵庫医科大学

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

vol.226
2014年6月号

就任挨拶、名誉教授称号授与、国家試験結果
科学研究費助成事業交付内定一覧
平成27年度入学試験、研究REPORT
平成26年度オープンキャンパス
看護の日記念行事、病院運営方針発表
常勤理事の業務担当、幹部教員FDプログラム
平成25年度決算、孔子学院シンポジウム

vol.226. ～2014年6月25日発行～
CONTENTS

02　最近の主な出来事

■兵庫医科大学
03　副学長 就任挨拶
　小児科学 主任教授就任挨拶
　名誉教授称号授与
04　第108回医師国家試験を振り返って
05　平成26年度科学研究費助成事業交付内定一覧
07　平成26年度科学研究費助成事業(奨励研究)交付内定一覧
　平成26年度厚生労働科学研究費補助金交付内定一覧
08　財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況
　平成27年度入学試験
09　平成26年度入試相談会日程
　トムソン・ロイター インパクトの高い論文数の
　日本の研究機関ランキング 免疫学で第８位にランクイン
10　学位授与
　研究REPORT 腫瘍免疫制御学 岡村春樹 特任教授

■兵庫医療大学
11　教授就任挨拶
　名誉教授称号授与
　アデレード大学との基本合意書の締結
12　平成25年度 国家試験結果について
13　グランフロント大阪ナレッジキャピタルでの展示
　学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会 開催
14　ＢＬＳ講習会 開催
　平成26年度科学研究費助成事業
　(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)交付内定一覧
15　財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況
　平成27年度入学試験
16　研究REPORT 看護学部 土田敏恵 教授

■兵庫医科大学病院
17　副院長 就任挨拶
　脳卒中センター長 就任挨拶
　総合診療センター長 就任挨拶
18　腎移植センター長 就任挨拶
　炎症性腸疾患外科 診療部長 就任挨拶
　炎症性腸疾患内科 診療部長 就任挨拶
19　臨床検査技術部長 就任挨拶
　放射線技術部長 就任挨拶
　一日「まちの保健室」開催
20　小児病棟患者さん向けイベント開催
　病院運営方針説明会および平成25年度 病院活動費配分
21　平成25年度兵庫県歯科保健文化功労賞 受賞
　兵庫医大フロンティア医療セミナー

■ささやま医療センター
　ささやま老人保健施設
22　平成26年度 篠山キャンパス入職式
　ひなまつりコンサート開催

■学校法人兵庫医科大学
23　副理事長 就任挨拶
　中医薬孔子学院長就任挨拶
　クールビズの実施について
24　理事・評議員の異動
　平成26年度常勤理事の業務分担
　平成25年度定年退職者(管理職位)一覧
　懲戒処分について
25　平成25年度学校法人兵庫医科大学 決算
27　兵庫医科大学開学40周年記念事業募金
　中医薬孔子学院 シンポジウム・理事会の開催
28　学校法人兵庫医科大学基金兵医・萌えの会 状況報告
　幹部教員ＦＤの実施
29　規程等の制定・改正・廃止
30　報道機関への出演・掲載
31　7～8月の行事予定
33　平成26年度兵庫医療大学オープンキャンパス
34　平成26年度兵庫医科大学オープンキャンパス

最近の主な出来事

4月 April

1	■ささやま医療センター ■学校法人兵庫医科大学	入職式	→P22
3	■兵庫医科大学	入学式（学部・大学院）・保護者説明会	
3・4	■兵庫医療大学	【看護学部新４年生対象】社会人スキル対策講座	
3～5	■兵庫医科大学	新入生学内オリエンテーション	
5	■兵庫医療大学	入学式	
	■兵庫医科大学	白衣授与式	→P2
8	■ささやま医療センター	看護師宿舎　竣工式	→P2
9	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「なおる高血圧をみのがさないために」	
12	■兵庫医療大学	平成26年度入学生対象　ＢＬＳ講習会	→P14
23	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「病院における有害事象」	
26	■兵庫医療大学	第5回「学校法人兵庫医科大学連携病院の会」 合同病院説明会	→P13
4/22～ 5/20	■兵庫医療大学	ナレッジキャピタル「Active Lab」内 「大学都市ＫＯＢＥ！ 発信プロジェクト」ブース展示	→P13

5月 May

8	■兵庫医科大学病院	第21回フロンティア医療セミナー	→P21
14	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「帯状疱疹後神経痛の治療」	
15	■兵庫医療大学	仕事研究セミナー （リハビリテーション学部作業療法学科）	
17	■兵庫医科大学病院	看護の日イベント 一日「まちの保健室」	→P19
22	■兵庫医科大学病院	小児病棟患者さん対象イベント	→P20
24	■兵庫医療大学	公開講座　知って得する薬剤師活用術 （薬学部 教授 天野学）	→P2
24～28	■学校法人兵庫医科大学	中医薬孔子学院シンポジウム（北京）	→P28
25～28	■学校法人兵庫医科大学	アジア孔子学院合同会議（ジャカルタ）	
29	■学校法人兵庫医科大学	兵庫医科大学健康医学クリニック　起工式	→P2
5/30～ 6/1	■学校法人兵庫医科大学	幹部教員FDプログラム	→P27
30	■兵庫医療大学	第７回欧州研修報告会	

4/5 ■兵庫医科大学 白衣授与式

臨床実習に臨む新５年生を対象に、3-３講義室にて白衣授与式が執り行われました。中西学長、難波病院長から学生への激励の言葉が贈られ、各教授より校章と氏名が刺繍された白衣が一人ひとりに着せ掛けられました。

その後「ヒポクラテスの誓詞」を唱和し、新しい学年を迎え臨床実習に臨む学生たちは、医学の道を進む決意を新たにしました。

4/8 ■ささやま医療センター 看護師宿舎竣工式について

平成２６年３月末、鉄筋コンクリート造地上３階建の兵庫医科大学篠山キャンパス看護師宿舎が完成し、４月８日、晴天のもと看護師宿舎内において竣工式が執り行われました。法人から新家理事長をはじめ法人役員、篠山市からは市議会議長、近隣自治会の方々が出席され、神式によるおごそかな雰囲気の中、祭祀・式典が進められました。

式典終了後は、理事長をはじめ兵庫医科大学関係者と篠山市長、市議会議長他、篠山市関係者との交流を図るため会食の席が設けられ、なごやかな雰囲気の中、無事閉会となりました。

5/24 ■兵庫医療大学 公開講座「知って得する薬剤師活用術 ー薬剤師を使えば医療が変わるー」開催

兵庫医療大学にて公開講座「知って得する薬剤師活用術－薬剤師を使えば医療が変わる－」を開催し、６６名の方にご参加いただきました。

薬学部の天野 学教授が講師を務め、高齢化社会を迎え医療が変化する中、薬剤師はどのような仕事をしているのか、どんなことに取り組んでいるのか薬局での例をあげて講演しました。参加者からは「薬剤師の初歩的なことから専門的なことまで役に立ついい話が聞けました」などのご意見をいただきました。

5/29 ■学校法人兵庫医科大学 兵庫医科大学健康医学クリニック起工式

学校法人兵庫医科大学が平成２７年４月１日に開設する「兵庫医科大学健康医学クリニック」の建設工事安全祈願のための起工式が、鹿島建設株式会社主催のもと、平成２６年５月２９日午前１０時より行われました。

本学より新家理事長以下１６人、鹿島建設株式会社より押味専務執行役員関西支店長以下８名が参加し、晴天のなか穿初の儀および玉串奉奠等の神事が無事執り行われました。

副学長 就任挨拶〈４月１日就任〉

内科学　呼吸器ＲＣＵ科
中野 孝司

この度、副学長（ささやま医療センター・がんセンター・新健診センター担当）を拝命致しました。中西学長のもと臨床と繋がりが深い３領域の担当副学長の重責を浅学の身ながら精一杯努めたいと存じます。何卒、宜しくお願い申し上げます。

現在、ささやま医療センターでは、西宮本院との一体化運営を柱とした改善策が学長主導で着手され、改革の途についたところです。この成功には本学の全臨床系講座の多大な御支援と御理解が是非とも必要であり、これなしに成功に導くことは不可能であります。健診事業では、既に多くの国公私立医大では、最先端の医療を提供する大学病院の利点を活用した事業と健診市場の増大で業績を上げています。本学においては、波田副理事長を中心に新健診センターの建設が来年度の開業を目指して進んでいますが、活発な広報活動と阪神間の健診ニーズを的確に捉えた運営が必要です。現在、二人に一人が“がん”に罹患する状況であり、国民のがん検診に対する関心は高く、安心した社会生活の維持のためにも、健康管理を含めた複合的ながん検診事業が注目されます。がん対策は非常に重要な課題であり、厚労省によるがん医療の均てん化事業で進められてきた全国のがん診療連携拠点病院の構築は、来年度から見直しに入ります。本学は、がん診療連携拠点病院であるとともに、がん専門医療職の養成を大学院教育で実施しています（文科省「がんプロフェッショナル養成プラン」）。大学におけるがんセンターは外来化学療法室の運営に留まらず、その機能の充実を図ることが重要と考えております。

諸先生方、同窓会・後援会、医療職・事務職の皆様方の御指導・御支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

主任教授 就任挨拶〈４月１日就任〉

小児科学
竹島 泰弘

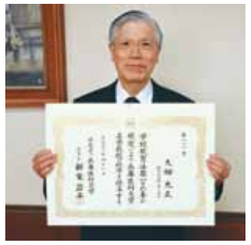
この度、小児科学講座第４代主任教授に就任いたしました。多くの病気で苦しむこども達が元気に回復し、笑顔をとり戻すことができるよう、当小児科スタッフと一丸となって小児医療を推進してまいります。

小児科は誕生から成人に至る成長の過程の中で、幅広い領域の疾患を取り扱う分野です。そのため、多くの専門性が要求されます。また、こどもの病気の多くが急性発症するため、休日・夜間の対応も稀ではありません。そのため、チーム医療が不可欠です。小児科学講座は、腎疾患、新生児、血液腫瘍、アレルギー、神経・筋、代謝・内分泌など、幅広い領域で多くの業績を上げてきています。私自身も今まで行ってきた筋ジストロフィーの治療法開発研究をさらに推進していきたいと思います。

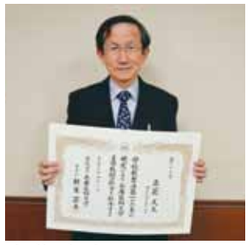
このような小児医療のスペシャリストの連携のもと、こども達の健やかな成長・発達を目指して診療・研究、そして次世代を担う小児科医育成を行ってまいります。

名誉教授称号授与

平成２６年４月１日付けで、平成２６年３月３１日に定年退職された４名の方に兵庫医科大学名誉教授の称号が授与されました。



大柳 光正 前主任教授
（内科学冠疾患科）



立花 久大 前主任教授
（内科学総合診療科）

谷澤 隆邦 前主任教授
（小児科学）

村川 和重 前主任教授
（疼痛制御学）

兵庫医科大学

第１０８回　医師国家試験を振り返って

副学長（教育担当）
医学教育センター長
鈴木 敬一郎

第108回 医師国家試験
試験日：平成２６年２月８～１０日
発表日：平成２６年３月１８日

	本学			全国		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
新卒者	101名	99名	98.0%	7749名	7275名	93.9%
既卒者	13名	10名	76.9%	883名	545名	61.7%
総数	114名	109名	95.6%	8632名	7820名	90.6%

	第107回（昨年）本学			第107回（昨年）全国		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
新卒者	106名	95名	89.6%	7,742名	7,205名	93.1%
既卒者	1名	0名	0.0%	827名	491名	59.4%
総数	107名	95名	88.8%	8,569名	7,696名	89.8%

２月８～１０日の３日間、第１０８回医師国家試験が実施されました。結果は別表をご覧ください。

本学は新卒１０１名中９９名が合格でした。また留年生も５名（うち卒業試験不合格は４名）のみで、国家試験不合格も２名でしたので、大変素晴らしい結果でした。６年生の皆さんの頑張りに敬意を表したいと思います。

合格基準については、必修問題は絶対基準８０％、一般問題及び臨床実地問題については相対基準とされており、一般が６５．３％、臨床実地問題が６６．２％でした。今回の問題は大変難しく、前回より一般問題で約４％、臨床実地問題で約５％ボーダーラインが下がりました。詳細は割愛いたしますが、これまで出題されていない疾患も沢山出題され難問も多かったようです。ただ合格した方は難問をこなしたというより、難問に動じず標準的な問題を確実に正解できた方であったと思います。本学では卒業試験をはじめ模擬試験も多数実施していますので、本学の学生の皆さんは落ち着いて受験してくれたのだと思います。

振り返りますと、この６年生はまとまりがあり成績優秀で、仕上がりも早く年末の模試では全国トップクラスでした。実は昨年の６年生も優秀でしたが、１２月～２月にやや緩んでしまい、１１名が不合格でした。今回は学生諸君も油断しないよう頑張り、好成績を上げることができました。しかし終了後の自己採点サイトでの大学別平均はむしろ下位でした。全員合格できた可能性がある一方、少しボーダーが上がれば１０名近い不合格者を出す恐れもあり、手放しで喜ぶ状況ではありません。他大学でも予想外の低合格率のところが散見されます。国試がここまで難関化しますと、どの大学でも「受験対策」が必要になってきた時代と思われます。本学の国試対策は大変効率的で余裕を持って国試を迎えることを目指しています。しかし今後はすべての大学で厳しい受験指導が行われ、更なる競争の激化が懸念されます。本来は資格試験であるはずの医師国家試験が競争試験となり、６年生の臨床実習など医学教育へ影響も出ているのが現状です。特に来年度以降は定員増で受験生も増加します。医師国家試験のあり方について再考すべき時期にあるように感じています。

今後の本学の方針としましては、6年生の国試対策は継続する一方、むしろそれまでの教育が重要と考えています。臨床実習の充実は言うまでもなく、臨床実習開始前の教育で問題解決能力と自己学習能力を涵養（かんよう）することが必要です。今年度からチーム基盤型学習を４年に加え３年にも導入すること、２年の基礎講座配属の延長、１年のアカデミックリテラシー教育など新たな取り組みに着手しています。

最後になりましたが、今回不合格であった皆さんが１０９回では全員合格することを祈念しています。卒業生もサポートしますので、遠慮なく医学教育センターまで連絡してください。

平成２６年度　科学研究費助成事業交付内定一覧

平成26年度科学研究費助成事業（124件 総額260,390千円〈うち直接経費200,300千円、間接経費60,090千円〉）の交付が下記のとおり内定されました。

なお、昨年度の交付額は138件 総額304,070千円（うち直接経費233,900千円、間接経費70,170千円）でした。

（単位：千円）

所　属	研究代表者	研　究　課　題　名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
基盤研究（Ａ）				
公衆衛生学	島 正之	出生コーホートを用いた妊娠中の大気汚染が妊婦及び出生児に及ぼす影響の解明	6,500	1,950
基盤研究（Ｂ）				
解剖学(神経科学部門)	野口 光一	慢性疼痛発症・維持機構としての脊髄グリア・血管・ニューロン相互連関の分子基盤	3,700	1,110
免疫学・医動物学	善本 知広	IL-33と好塩基球によるアレルギー性鼻炎病態形成に関する研究	3,000	900
公衆衛生学	島 正之	中国大都市における大気汚染の特性と健康影響に関する疫学研究	3,000	900
環境予防医学	若林 一郎	新しい血圧脈波検査を用いた末梢動脈疾患に関する疫学研究	1,900	570
法医学	西尾 元	胸腺リンパ体質類似モデルの病態解析	2,400	720
遺伝学	振津 かつみ	三つの原発重大事故の健康・生活影響と社会支援の国際比較	2,400	720
内科学(総合診療内科)	森本 剛	臨床決断支援システムを用いた薬剤性有害事象対策の有効性に関する研究	4,200	1,260
外科学(肝・胆・膵外科)	藤元 治朗	外科手術後癒着形成分子機構に基づく新規包括的癒着制御法の開発と探索医療の模索	4,700	1,410
リハビリテーション医学	道免 和久	CI療法における長期効果の神経基盤の解明とより効果的な治療戦略の構築	11,400	3,420
リハビリテーション医学	小山 哲男	脳卒中患者の予後予測～拡散テンソル法FA値を用いた数式モデルの構築～	5,800	1,740
腫瘍免疫制御学	岡村 春樹	胃がん腹膜播種に対する新しい免疫細胞を用いた治療開発	3,400	1,020
基盤研究（Ｃ）				
物理学	福田 昭	２層量子ホール系における動的コステリッツーサウレス転移の研究	1,000	300
生物学	池田 啓子	遺伝子改変マウスを用いたナトリウムポンプ病ー家族性片麻痺性片頭痛２型ーの病態解明	1,700	510
情報学	藤原 康宏	オンライン・ピア・アセスメントにおけるトラスト・マネジメント	1,400	420
解剖学(細胞生物部門)	前田 誠司	腎血圧調節機構における神経性および細胞性作用経路の解明	900	270
解剖学(神経科学部門)	八木 秀司	細胞骨格調節因子FILIPの神経突起伸展調節機構に関わる機能解析	1,600	480
解剖学(神経科学部門)	山中 博樹	神経傷害性疼痛における接着因子とCaチャネルの局在変化による脊髄後角の形態変化	1,500	450
解剖学(神経科学部門)	小林 希実子	末梢神経障害後の脊髄マイクログリアでのＡＴＰ受容体ーＲｈｏを介した形態変化の解析	1,300	390
解剖学(神経科学部門)	福岡 哲男	ＧＤＮＦを介した後索核経由の神経障害性疼痛のメカニズム解明	1,200	360
生理学(生体機能部門)	荒田 晶子	小脳オレキシンによる睡眠覚醒モードの呼吸神経回路動態の解析	1,700	510
生化学	鈴木 敬一郎	認知機能や情動行動に及ぼす酸化ストレスの影響	1,300	390
生化学	崎山 晴彦	転写因子ChREBPを標的とした生活習慣病の予防法および治療薬の開発	1,300	390
病原微生物学	内山 良介	Fasシグナルを介した新たな細菌感染防御機構の解明	1,600	480
免疫学・医動物学	安田 好文	糞線虫感染に伴うレフレル症候群の発症意義の解明	1,200	360
環境予防医学	東山 綾	ニコチン酸及びその代謝関連酵素の血中濃度と循環器疾患リスクに関する地域疫学研究	1,700	510
遺伝学	玉置 知子	日本人悪性中皮腫に高頻度で見出されたｐ領域欠損の機能解析と診断への応用	700	210
遺伝学	中野 芳朗	Ｇｏｒｌｉｎ症候群由来細胞を用いたヘッジホッグ情報伝達系の解析	900	270
遺伝学	久保 秀司	二重制御型腫瘍溶解アデノウイルスを用いた新しい播種性癌治療法の開発	1,400	420
遺伝学	吉川 良恵	悪性中皮腫の易罹患性を生殖細胞系列ゲノムで診断する方法の考案	2,100	630
遺伝学	江見 充	環境癌における3p21領域ゲノム構造異常の詳細解析	900	270
遺伝学	岡野 善行	グルタメイト脱水素酵素異常症モデルマウスによる病態解明と治療法の開発	1,200	360
病理学(機能病理部門)	寺田 信行	ヒストン脱アセチル化及び遺伝子メチル化阻害剤による骨肉腫細胞抗癌剤耐性誘導の抑制	600	180
病理学(機能病理部門)	大山 秀樹	IL-1ファミリーに属する新規サイトカインの歯周病態への関与とその治療応用	1,300	390
病理学(機能病理部門)	小越 菜保子	IL-22による歯周病細菌の感染制御のための基礎的研究	1,300	390
病理学(分子病理部門)	辻村 亨	悪性中皮腫の発生および生物学的特性を規定するエピジェネティクス機構の解明	1,500	450
病理学(分子病理部門)	鳥井 郁子	疾患モデルを用いた腸管粘膜の免疫調節機構の解明：制御細胞の機能解析	1,200	360
病理学(分子病理部門)	佐藤 鮎子	細胞接着分子ＣＤ１４６に着目した悪性胸膜中皮腫の早期診断と病態の解明	1,200	360
内科学(循環器内科)	増山 理	心腎貧血連関ネットワークの解析と新規治療戦略の開発	800	240
内科学(循環器内科)	廣谷 信一	IL-18の心不全発症保護作用の検討	1,400	420
内科学(循環器内科)	内藤 由朗	高血圧症における鉄の関与と新規予防戦略の開発	1,600	480
内科学(血液内科)	小川 啓恭	ヒト白血球抗原半合致移植の成立機序の解析	1,200	360
内科学(糖尿病・内分泌・代謝科)	小山 英則	メタボリックシンドローム・動脈硬化における終末糖化産物・血管炎症の意義	1,200	360
内科学(肝・胆・膵科)	西口 修平	慢性肝疾患における肝細胞障害と肝内凝固亢進状態の関連性に関する検討	1,700	510
内科学(肝・胆・膵科)	榎本 平之	肝癌由来増殖因子の血管新生と肝癌増殖における役割の検討	1,200	360
内科学(消化管科)	三輪 洋人	ストレス負荷時の食道生理機能変化を指標とした非びらん性胃食道逆流症の病態解析	1,400	420
内科学(消化管科)	大島 忠之	ディスペプシア症状発現における十二指腸上皮細胞間接着装置とIL-33に関する検討	1,300	390
内科学(消化管科)	福井 広一	消化管粘膜の恒常性維持における Reg 蛋白の役割	2,300	690
内科学(神経・脳卒中科)	芳川 浩男	軸索ジストロフィーモデルマウスを用いた神経軸索障害の成因に関する研究	1,900	570

（単位：千円）

所　属	研究代表者	研　究　課　題　名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
内科学(腎・透析科)	中西 健	腎性貧血治療における鉄貯蔵状態と造血細胞分化・鉄利用の関係の検討	1,200	360
内科学(腎・透析科)	長澤 康行	IgA腎症発症に関わる口腔内免疫応答の解明	1,300	390
小児科学	竹島 泰弘	筋ジストロフィー分子治療の有効性に関与する炎症性物質の動態に関する研究	1,600	480
放射線医学	上紺屋 憲彦	ハイリスク放射線治療患者での直腸粘膜障害の予防と治療ー亜鉛製剤の設計と評価ー	1,200	360
皮膚科学	山西 清文	角化症における警告因子の誘導と病態	1,600	480
外科学(肝・胆・膵外科)	飯室 勇二	肝組織修復における類洞内皮細胞、星細胞の役割解明と骨髄、脾臓との臓器相関の解析	1,200	360
外科学(肝・胆・膵外科)	平野 公通	肝癌脈管侵襲・進展に関与する分子の探索および制御法の開発	1,200	360
外科学(肝・胆・膵外科)	宇山 直樹	肝内胆管癌におけるHemidesmosome関連蛋白の働きと治療への応用	800	240
外科学(小児外科)	奥山 宏臣	低出生体重児の腸管機能不全と消化管サーファクタントの関連性に関する研究	1,500	450
外科学(乳腺・内分泌外科)	三好 康雄	FDG-PETによる術前化学療法の早期治療効果判定法の確立	1,000	300
外科学(上部消化管外科)	菊池 正二郎	がん微小環境における転移制御因子の同定と胃がん治療戦略の確立	1,000	300
外科学(下部消化管外科)	冨田 尚裕	大腸癌におけるオキサリプラチン耐性の異なる二つの分子マーカー同定と臨床応用	1,800	540
外科学(下部消化管外科)	野田 雅史	網羅的遺伝子解析による大腸癌リンパ節外転移の診断法確立と新たな転移関連因子の検索	1,200	360
外科学(呼吸器外科)	長谷川 誠紀	悪性胸膜中皮腫に対する分子標的薬剤治療の模索	1,200	360
外科学(呼吸器外科)	黒田 鮎美	ヒアルロン酸/CD44/MEK経路遮断による悪性胸膜中皮腫治療の開発	1,200	360
整形外科学	麸谷 博之	骨肉腫の肺転移抑制におけるmTOR阻害剤とバルプロン酸併用による有効性向上の研究	1,400	420
形成外科学	垣淵 正男	端側型神経移植による顔面神経再生様式の解析	800	240
形成外科学	河合 建一郎	糖尿病性創傷治癒障害における血清由来Nanoparticleの役割の解明	1,200	360
泌尿器科学	山本 新吾	尿路病原性大腸菌の薬剤排出ポンプ機能の阻害によりキノロン耐性誘導を阻止する	900	270
泌尿器科学	呉 秀賢	進行性腎細胞癌に対するLexatumumab併用テムシロリムス療法の開発	900	270
耳鼻咽喉科学	都築 建三	メンソール、カプサイシンが神経系を介して鼻炎、副鼻腔炎の病態に及ぼす影響	1,000	300
麻酔科学・疼痛制御科学	廣瀬 宗孝	高齢者の痛みにおける高齢者総合的機能評価およびエピジェネティクスの関与の解明	1,400	420
麻酔科学・疼痛制御科学	多田羅 恒雄	侵襲時におけるヒドロキシエチルデンプン製剤の血管内皮糖鎖構造の保護効果	1,700	510
歯科口腔外科学	岸本 裕充	人工呼吸関連肺炎予防のための経口気管挿管患者に対する最適な口腔ケア方法の確立	1,300	390
歯科口腔外科学	野口 一馬	難治性口腔癌に対するヘッジホッグシグナルを応用した治療戦略	1,300	390
歯科口腔外科学	長谷川 誠実	歯痛と海馬の可塑性および帯状回・扁桃核との機能連携の解析	1,700	510
歯科口腔外科学	高岡 一樹	組織内微小環境因子を標的とした骨治癒促進効果	1,700	510
歯科口腔外科学	長谷川 陽子	咀嚼する食品の味・香りがストレス反応に与える影響	1,200	360
救急・災害医学	小谷 穣治	日本人の重症病態とTLR/IL-1Rファミリーの IL-18遺伝子多型と性差の関係	1,300	390
救急・災害医学	中尾 篤典	ラット出血性ショック蘇生後肺障害モデルにおける水素吸入療法の効果	1,000	300
地域総合医療学	奥田 真珠美	胆道閉鎖症術後と乳幼児の肝機能障害におけるヘリコバクター・ヘパティカスの役割解明	1,300	390
医療情報学	宮本 正喜	オントロジ技術を用いた内視鏡診断学習システムの開発	200	60
輸血部	藤盛 好啓	Ｓｒｃファミリーキナーゼの悪性腫瘍進展での役割の解析と治療への応用	1,300	390
病院病理部	羽尾 裕之	大動脈瘤の病理組織学的病態解明と新規治療の開発	1,200	360
病院病理部	松田 育雄	病理診断学とGISTモデルマウスの融合によるGISTのエピゲノム治療の開発	1,600	480
病院病理部	礒崎 耕次	カハールの介在細胞による消化管蠕動運動の制御機構の解析	900	270
先端医学研究所(細胞・遺伝子治療部門)	小山 倫浩	肺癌内薬物代謝酵素発現の網羅的解析による新規抗癌剤感受性評価法の開発	1,200	360
挑戦的萌芽研究				
生理学(生体機能部門)	越久 仁敬	頚部干渉波電気刺激の嚥下機能改善効果の検討	900	270
生理学(生体情報部門)	西崎 知之	Ｇタンパク質αサブユニットによる悪性中皮腫増殖制御経路の解明	1,400	420
免疫学・医動物学	善本 知広	環境微粒子のアレルギー性鼻炎に対する影響	1,400	420
公衆衛生学	島 正之	浮遊粒子中のエンドトキシン定量法の開発と喘息の病態との関連性の評価	1,200	360
環境予防医学	若林 一郎	新しいペプチドーム解析法を用いた敗血症性ショック診断に有用なバイオマーカーの開発	1,700	510
医学教育学	今西 宏安	TBLと双方向型教育のハイブリッド型active learningの試み	1,300	390
泌尿器科学	兼松 明弘	乳児排尿測定装置の開発	600	180
歯科口腔外科学	浦出 雅裕	口腔癌の再発・転移に対するバイオマーカーとしてのマイクロＲＮＡ探索	1,200	360
先端医学研究所(神経再生研究部門)	中込 隆之	脳傷害誘導性神経幹細胞の血管分化能に関する検討	1,000	300
若手研究(Ａ)				
英語	作間 未織	小児科病棟における医原性有害事象の発生率及びリスク因子測定のための臨床疫学研究	6,600	1,980
若手研究(B)				
数学	大門 貴志	抗がん剤の用量探索研究のデザイン及び統計的推測法の開発	600	180
物理学	寺澤 大樹	グラフェンにおけるスカーミオン励起の研究	1,100	330
化学	江崎 啓祥	新規パラジウム触媒の機能性開発研究	600	180
生物学	菅原 文昭	円口類ヤツメウナギ、ヌタウナギを用いた、対鼻性獲得ための分子発生学的変遷の解明	1,500	450
生理学(生体情報部門)	菅野 武史	悪性胸膜中皮腫に対する新規ナフトピジル誘導体の抗腫瘍効果の判定	2,200	660
生化学	江口 裕伸	新規糖尿病マーカーとしてのニトロ化ＩＬ－１８の評価とＥＬＩＳＡの確立	900	270
生化学	吉原 大作	老化と鉄：活性酸素シグナルによる鉄代謝調節機構の解明	1,600	480
公衆衛生学	大谷 成人	インフルエンザウイルスの簡便な細胞性免疫評価法の確立	1,100	330
環境予防医学	江口 良二	免疫抑制剤による血管内皮障害の分子機序の解明	1,300	390

（単位：千円）

所　属	研究代表者	研　究　課　題　名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
病理学(分子病理部門)	篠原 義康	悪性中皮腫における腫瘍生存・増殖、抗がん剤抵抗性機序の解明とその応用	1,800	540
内科学(循環器内科)	奥原 祥貴	敗血症に伴う心筋障害におけるIL18の関与と治療戦略の開発	1,000	300
内科学(冠疾患科)	澤田 悠	腹部大動脈瘤における鉄の関与と治療戦略の探索	1,200	360
内科学(リウマチ・膠原病科)	関口 昌弘	人工抗体を用いた滑膜増殖の制御	900	270
内科学(消化管科)	近藤 隆	ラット逆流性食道炎モデルにおけるプロスタグランジンと自発運動への関与	1,300	390
内科学(総合診療科)	太田 好紀	集中治療室（ICU,NICU）における薬剤性有害事象に関する臨床疫学研究	1,300	390
放射線医学	土井 啓至	新規放射線防護材としてのスタチンの可能性と肥満が及ぼす影響	2,100	630
皮膚科学	山本 雅章	皮膚におけるインターロイキン３６の活性化に関する研究	1,100	330
皮膚科学	羽田 孝司	インターロイキン33の活性化と皮膚炎の病態に関する研究	900	270
泌尿器科学	鈴木 透	副刺激を調節したγδＴ細胞を用いた新たな養子免疫療法の可能性の検討	1,100	330
眼科学	田片 将士	リンパ球Sema4D分子標的による神経再生療法の検討	900	270
眼科学	石川 裕人	神経細胞死後の二次変性・他細胞障害に至る経路の解明	1,500	450
歯科口腔外科学	吉川 恭平	口腔扁平上皮癌におけるシスプラチン耐性機構の解析	1,500	450
歯科口腔外科学	山村 倫世	EMT誘導による骨微小環境変化の解明	1,300	390
リハビリテーション医学	森下 慎一郎	造血幹細胞移植患者の無菌室での身体活動パターンの解明と自主運動プログラムの開発	1,500	450
ペインクリニック部	恒遠 剛示	モルヒネ慢性投与下におけるペンゾゾアゼピン感受性増強の関連性の解明	600	180
先端医学研究所(アレルギー疾患研究部門)	松下 一史	気道組織に特異的なIgE産生ならびにTh2細胞活性化機構の研究	1,600	480
研究活動スタート支援				
内科学(腎・透析科)	名波 正義	糖尿病性腎症での尿細管・間質線維化における細胞内鉄代謝異常の関与	1,000	300
新学術領域研究(研究領域提案型)				
物理学	福田 昭	量子ホール系におけるエッジ状態とトポロジカル励起の研究	1,900	570
計　（124件）			200,300	60,090
			260,390	

平成２６年度　科学研究費助成事業（奨励研究）交付内定一覧

（単位：千円）

所　属	研究代表者	研　究　課　題　名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
奨励研究				
リハビリテーション部	福岡　達之	舌圧センサシートを用いたパーキンソン病患者の嚥下時舌圧に関する研究	500	0
リハビリテーション部	山内　真哉	急性期内科疾患における日常生活動作自立度判定のための簡易的評価法の検討	500	0
放射線技術部	井上　裕之	DICOM-RTを用いた強度変調回転放射線治療の治療計画評価プログラムの開発	500	0
計　（3件）			1,500	0
			1,500	

平成２６年度厚生労働科学研究費補助金交付内定一覧

（単位：千円）

研究事業名	所　属	研究代表者	研　究　課　題　名	交付内定額	
				直接経費	間接経費
奨励研究					
地域医療基盤開発推進	内科学（総合診療科）	森本　剛	安全な薬物治療を促進する多職種間情報共有システムの開発に関する研究	3,500	250
難治性疾患等政策	外科学（小児外科）	奥山　宏臣	低出生体重児消化管機能障害の疾患概念確立にむけた疫学調査研究	1,308	392
難治性疾患等政策	産科婦人科学	澤井　英明	胎児・新生児骨系統疾患の診断と予後に関する研究	20,000	6,000
計　（3件）				24,808	6,642
				31,450	

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

（単位：千円）

助成団体名	研究課題名	研究者	交付額
（公財）兵庫県健康財団	Helicobacter pylori 除菌による胃粘膜遺伝子変化と発癌抑制効果に関する研究	福井　広一	500

平成２７年度 入学試験

一般公募制推薦入学試験

試験日	平成26年11月9日(日)
募集人数	約15名
出願期間	平成26年10月22日(水)～平成26年11月4日（火）必着

地域指定制推薦入学試験

試験日	平成26年11月9日(日)
募集人数	5名以内
出願期間	平成26年10月22日(水)～平成26年11月4日(火)必着

一般入学試験

試験日	第1次試験　平成27年1月21日(水)
	第2次試験　平成27年1月31日(土) または2月1日(日)(希望日選択制)
募集人数	約74名
出願期間	平成26年12月8日(月)～平成27年1月13日(火)消印有効

大学入試センター試験利用入学試験（前期）

試験日	第1次試験　平成27年1月17日(土)・18日(日)センター試験
	第2次試験　平成27年2月16日(月)
募集人数	約15名
出願期間	平成26年12月8日(月)～平成27年1月16日(金)消印有効

平成27年度入試より、センター試験利用入学試験（後期）を導入します。

大学入試センター試験利用入学試験（後期）

試験日	第1次試験　平成27年1月17日(土)・18日(日)センター試験
	第2次試験　平成27年3月16日(月)
募集人数	約3名
出願期間	平成27年2月2日(月)～平成27年3月2日(月)消印有効

平成２６年度 入試相談会日程

日時		場所	会場	相談会名	主催
日程	時間				
6月21日（土）	11：00～17：30	大阪	インテックス大阪（4号館・5号館）	テレメール進学ガイダンス＆夢ナビライブ2014	フロムページ
7月13日（日）	10：00～16：30	東京	ソラシティカンファレンスセンター	医学部進学フェスタ2014	教育広報社
7月19日（土）	11：00～16：00	名古屋	名古屋国際会議場（イベントホール）	全国国公立・有名私大相談会2014	大学通信
7月20日（日）	11：00～16：00	大阪	大阪国際会議場（イベントホール）	全国国公立・有名私大相談会2014	大学通信
7月26日（土）	14：00～18：00	大阪	梅田センタービル	医学系大学フェア2014	さんぽう/ 大阪医歯学院
7月27日（日）	11：00～16：00	横浜	パシフィコ横浜（展示ホールD）	全国国公立・有名私大相談会2014	大学通信
7月28日（月）	12：00～18：00	広島	広島ガーデンパレス	私立医科系大学進学相談会2014	教育広報社
7月31日（木）	12：00～18：00	大阪	新大阪ブリックビル	私立医科系大学進学相談会2014	教育広報社
8月8日（金）	12：00～18：00	福岡	ＦＦＢホール	私立医科系大学進学相談会2014	教育広報社
8月9日（土）	11：30～16：30	東京	日本医科大学	平成26年度私立医科大学合同入試説明会・相談会	私立医大協会
8月13日（水）	12：00～18：00	名古屋	ミッドランドホール	私立医科系大学進学相談会2014	教育広報社
8月29日（土）	11：30～16：30	名古屋	愛知医科大学	平成26年度私立医科大学合同入試説明会・相談会	私立医大協会
8月30日（土）	11：30～16：30	大阪	近畿大学	平成26年度私立医科大学合同入試説明会・相談会	私立医大協会
9月14日（日）	11：30～16：30	栃木	自治医科大学	平成26年度私立医科大学合同入試説明会・相談会	私立医大協会
10月4日（土）	13：00～16：30	大阪	大阪城ホール内　東側　城見ホール	代ゼミ全国医歯薬科大学受験相談会	代々木ゼミナール
10月25日（土）	13：00～16：30	東京	新宿エルタワー	代ゼミ全国医歯薬科大学受験相談会	代々木ゼミナール

詳しくは入試課へお問い合わせください。

学務部 入試課　TEL：0798-45-6162　　E-Mail：nyushi@hyo-med.ac.jp

トムソン・ロイター インパクトの高い論文数の日本の研究機関ランキング　免疫学で第８位にランクイン

世界的な情報サービス企業であるトムソン・ロイター（本社：米国ニューヨーク、日本オフィス：東京都港区）より、高被引用論文数による日本の研究機関ランキングが発表されました。本分析は、研究コミュニティに高いインパクトを持つ論文（高被引用論文）に注目することで、日本の研究機関の存在感を俯瞰するひとつの指標とするものです。

その中で、免疫学の分野において、兵庫医科大学が国内で第８位にランクインしました。分野別ランキングは、日本の研究機関が著者所属機関に含まれる高被引用論文の総計が、世界順位で５位以内の分野から、日本の大学・研究機関を抽出したものです。

免疫学／IMMUNOLOGY（世界4位）

順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文数の割合
1	大阪大学	70	5.74%
2	(独)科学技術振興機構	55	8.33%
3	東京大学	36	2.65%
4	京都大学	33	4.07%
5	(独)理化学研究所	26	3.93%
6	九州大学	12	2.19%
7	東北大学	9	1.78%
8	国立感染症研究所	6	0.66%
8	兵庫医科大学	6	3.92%
10	東京医科歯科大学	4	0.96%
10	北海道大学	4	0.73%
10	千葉大学	4	1.03%
10	東京都臨床医学総合研究所	4	2.88%
10	名古屋大学	4	1.44%

引用元：トムソン・ロイター社　プレスリリース(2014年4月15日)
http://ip-science.thomsonreuters.jp/press/release/2014/esi2014/

参考：免疫学分野国別トップ5

免疫学分野国別トップ5
1.米国
2.英国
3.ドイツ
4.日本
5.フランス

学位授与

学位記（甲）

報告番号	氏　名	専攻系	博　士　論　文　名	授与年月日
甲第661号	岡本（おかもと）　共弘（ともひろ）	医科学専攻	Interferon-Gamma-Mediated Tissue Factor Expression Contributes to T-Cell-Mediated Hepatitis Through Induction of Hypercoagulation in Mice （インターフエロンγを介した組織因子の発現は、病的な凝固亢進を誘導してT細胞媒介性マウス肝炎に寄与する）	H26.5.1
甲第662号	山田（やまだ）　太平（たいへい）	医科学専攻	IL18 Production and IL18 Promoter Polymorphisms Correlate with Mortality in ICU Patients （血中IL18濃度とIL18プロモーター領域遺伝子多型はICU患者における死亡率と相関する）	H26.5.1

学位記（乙）

報告番号	氏　名	博　士　論　文　名	授与年月日
乙第365号	東郷（とうごう）　容和（よしかず）	Antimicrobial prophylaxis to prevent perioperative infection in urological surgery : a multicenter study （泌尿器科領域における周術期感染予防抗菌薬の検討：多施設共同研究研究）	H26.6.5

研究 REPORT リポート

こんな人 メモ

愛媛県川内町（現東温市）で昭和２１年１月、農家の男ばかり６人兄弟の末っ子として生まれ、松山市内の中学、高校へ。大学進学では「田舎者だから世の中を広く知りたい」と社会学部を目標にした。しかし、クラス担任から「これからは生命科学が面白くなる」とアドバイスを受けて方向転換、１年浪人して大阪大学理学部生物学科に入学した。大阪大学微生物研究所を経て、昭和５１年兵庫医科大学細菌学講座の助手になり、インターフェロンの研究を始めた。

酒は１合ほどなら飲める。タバコは吸わない。何でも食べる。下手なゴルフ以外特に趣味は無いが、藤田まことの「刑事もの」や「仕掛人」などが好き。広島カープファンで、昨年引退した前田智徳選手を「武士のように野球道を求め続ける姿勢が気に入った」と応援していた。そう言えば、訥々と話す岡村にも、どこか古武士の風格がある。

ただ「本当のこと」を知るために追究し続ける

腫瘍免疫制御学 特任教授　岡村 春樹

６年にもおよぶ試行錯誤の末 画期的な新奇タンパク質を発見

「この研究室は本学を卒業した篤志家の寄付と大学の承認によって作られ、主にインターロイキン１８（ＩＬ-１８）の作用機序に関する研究をしています」

腫瘍細胞の増殖抑制などに効果があり、がんの抑制などの面でも注目されたγインターフェロン。リンパ球に作用してそのγインターフェロン産生を高めるタンパク質ＩＬ-１８を、腫瘍免疫制御学の岡村春樹特任教授が発見したのは、平成６年、兵庫医科大学の細菌学講座助手になって１８年目だった。

「Ｎａｔｕｒｅ」にＩＬ-１８に関する論文を発表、国内外にその功績が認められ、平成２５年には中西憲司学長と共同で、兵庫県内の大学・研究機関で初めて「第５５回野口英世記念医学賞」を受賞した。しかし、発見までの道程は決して平坦ではなかった。数千匹のマウスからγインターフェロンの産生を高める活性物質を精製し、わずか０．００００１グラムの純粋な新奇タンパク質を得る作業には、試行錯誤を繰り返して６年ほど費やした。当時を振り返り自嘲ぎみに笑う。

「出くわした現象を見て、“勘”のようなものが働いたんですね。“愚公移山”、積み重ねられた経験から生まれ出てくる勘を信じ、愚ともいえる努力を積み重ねました」

好きな言葉は「愚直」。研究者になっていなかったら？の問いに「農業をしていた」と即答する。種をまき、水を張り、肥料を与えて雑草を取る。雨風や日照りにも負けずに、努力を惜しまず長い月日をかけて収穫を行う。ＩＬ-１８を発見するまでの地道な過程にどこか似ている。

若い研究者とともに これからも「好奇心」を大切に

ＩＬ-１８の発見により、がん細胞やウイルス感染細胞を攻撃するリンパ球の増殖や活性化を促進する仕組みの解明などが期待されたことから、平成９年兵庫医大の先端医学研究所に生体防御研究部門が設置された。「ＩＬ-１８遺伝子欠損マウスの臓器をよく見るといろんな異常がみられます。ケラチノサイト（表皮を構成する細胞）や心筋細胞をはじめ、多くの非骨髄系細胞に存在するＩＬ-１８の役割を知ることで、今後、様々な疾患の病態解明に貢献できる可能性があります。現在までのところ、ＩＬ-１８の生物学的役割、非骨髄系細胞にも強く発現するＩＬ-１８の役割、ＩＬ-１８受容体の制御など肝心なことが置き去りになっています。ＩＬ-１８の本当の働きとは何なのか、もう少し探ってみたいんですよ」

本当のことが知りたい。だから追究し続ける――。岡村を突き動かしているのは、純粋な好奇心だ。

「研究は、教授のアドバイスに従って実行することも必要です。しかし自分で考え、自分で試してみる。予期しない結果が出たら、教授には内緒でその理由を調べてみることも大切です。研究とは本来は面白いからやるものであり、ある意味での“遊び心”も必要だと思っています。小さな発見を捨ててしまわずに、楽しみながら追いかけてほしいですね」

ＩＬ-１８のさらなる研究解明は、がんの免疫治療など臨床への応用が期待されている。「これからが本番とも言えるＩＬ-１８研究に、若者たちが興味を持って参加してくれることを願っています」とエールを送る。

教授就任挨拶〈４月１日就任〉

看護学部
神崎 初美

このたび、看護学部教授（療養支援看護学）を拝命いたしました。

療養支援看護学では、慢性疾患を有する方のセルフケアや意思決定を導く支援が重要となります。人々の生活背景を理解し包括的なアセスメントをする力や対処能力を高める援助が中心となりますが、学部教育では理論や概念教育とケアの実際がつながるよう、そして幅広く段階的で意欲的な学びができるよう導きたいと思います。また、これまでリウマチ看護の専門的支援、災害看護、生活習慣病患者の行動変容等に関する研究を行ってきました。大学院教育ではこれまでの研究実践を活かし、現在の臨床の課題改善に向かうような研究とその指導に努めたいと思います。

至らない点も多くあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

名誉教授称号授与

平成２６年４月１日付けで、平成２６年３月３１日に定年退職された次の方に兵庫医療大学名誉教授の称号が授与されました。

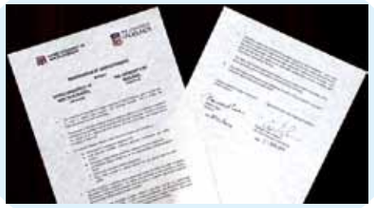
磯 博行 前教授（共通教育センター）

アデレード大学との基本合意書の締結

平成２６年３月、兵庫医療大学とオーストラリア連邦のアデレード大学との間で、両校の教育及び研究に利益をもたらし、両校の国際化を進めるための基本合意書が締結されました。アデレード大学は、オーストラリアで３番目に古い歴史を持ち（１８７４年開学）、これまでノーベル賞受賞者を５名輩出している名門大学です。この基本合意書は、下記の活動について両校間での協力について合意されたものです。

交流の第１段として、本学の看護学部生が8月16日から３週間の交換留学を実施する計画が進んでいます。また、来年2月16日から3週間、アデレード大学からの留学生が本学で学ぶ予定であり、今後、両校の協力により教育や研究活動の促進や国際化が期待されます。

・学生及び教職員の相互交流
・共同研究活動（セミナー、会議、公開講座を含む）
・刊行物・資料・情報の交換
・学部・大学院レベルにおける学位取得の共同プログラム
・共同品質保証と評価基準
・両校が合意した相互利益となるその他のプロジェクト



平成２５年度 国家試験結果について

平成２５年度　国家試験結果

第９９回　薬剤師国家試験
試験日：平成２６年3月1・2日　発表日：平成２６年3月31日

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
兵庫医療大学	117名	60名	51.3%	59名	26名	44.1%
【参考】本学昨年度	125名	81名	64.8%	–	–	–
全国	8,822名	6,219名	70.5%	2,517名	1,003名	39.9%

第１００回　保健師国家試験
試験日：平成２６年２月１４日　発表日：平成２６年３月２５日

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
兵庫医療大学	101名	97名	96.0%	2名	0名	0.0%
【参考】本学昨年度	106名	102名	96.2%	5名	4名	80.0%
全国	16,555名	14,698名	88.8%	753名	272名	36.1%

※既卒は個人出願の情報が未確定

第４９回　理学療法士国家試験
試験日：平成２６年２月２３・２４日　発表日：平成２６年３月３１日

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
兵庫医療大学	45名	45名	100.0%	1名	0名	0.0%
【参考】本学昨年度	43名	42名	97.7%	–	–	–
全国	9,889名	8,924名	90.2%	1,240名	391名	31.5%

第１０３回　看護師国家試験
試験日：平成２６年２月１６日　発表日：平成２６年３月２５日

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
兵庫医療大学	101名	101名	100.0%	–	–	–
【参考】本学昨年度	106名	106名	100.0%	1名	1名	100.0%
全国	52,914名	50,349名	95.2%	5,977名	2,551名	42.7%

第９７回　助産師国家試験
試験日：平成２６年２月１３日　発表日：平成２６年３月２５日

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
兵庫医療大学	7名	6名	85.7%	–	–	–
【参考】本学昨年度	8名	8名	100.0%	1名	1名	100.0%
全国	2,042名	1,993名	97.6%	37名	22名	59.5%

第４９回　作業療法士国家試験
試験日：平成２６年２月２３・２４日　発表日：平成２６年３月３１日

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
兵庫医療大学	39名	38名	97.4%	2名	2名	100.0%
【参考】本学昨年度	44名	43名	97.7%	2名	1名	50.0%
全国	4,391名	4,137名	94.2%	1,083名	603名	55.7%

薬学部

学部長
西山　信好

昨年度の国家試験合格率は新卒５１．３％（全国７０．５％）、総合４８．９％（同６０．８％）と奮いませんでした。全国合格率に及ばなかった現実を厳しく受け止め、今年度の国家試験対策を再構築しました。具体的には、学内教員による演習講義を前期に前倒しで実施します。この講義の目的を基礎学力の定着と国家試験の過去問をしっかり解くことに絞りこみました。また、学生の進捗状況を定期的に確認する月例試験も実施し、個々の学生へのフィードバックをより綿密に行います。さらに、学部の専門科目との接続性を高めるために１年次の専門基礎科目の教育内容を改善しました。来春こそは６年生全員の笑顔を見たいと思います。

看護学部

学部長
竹田 千佐子

平成２５年度の国家試験合格率は、看護師１００％、保健師９６．０％、助産師８５．７％（７名中６名合格）でした。看護師国家試験については、例年１００％の合格率を達成しています。看護学部では学生部会と教員部会からなる国家試験研究会を設けており、学生と教員が協同して国家試験対策を行っています。学生が主体的に国家試験対策を行うことが合格率を高める鍵であると考え、４年生の学生部会が年間の目標設定や具体的な学習方法について提案し、学生全員で共有します。教員部会は学生部会のサポートと学習方法に不安のある学生や模試の結果などで個別対応が必要な学生のサポートを行っています。

リハビリテーション学部

学部長
藤岡 宏幸

本学部では、理学療法士は４６名中４５名合格（９７．８％）、このうち新卒者は４５名全員が合格し、新卒１００％の合格率を達成することができました。作業療法士は４１名中４０名合格（９７．６％）でした。全国平均合格率が、理学療法士８３．７％、作業療法士８６．６％ですので、両学科とも高い合格率を確保することができました。

普段の授業においても国家試験を意識した指導を行うとともに、４年生の後期には少人数のゼミ形式で教員が密着して指導を行っています。また、国家試験直前の年末年始には、特に不安を抱える国試受験生（約１０名程度）に対して集中的に教員が指導を行っています。今後も学部全体で指導を行い、高い合格率を維持できるように努力したいと思います。

グランフロント大阪ナレッジキャピタル「Active Lab」での展示・体験イベント

平成２６年４月２２日から５月２０日までの約１か月間、「大学都市KOBE！発信プロジェクト」の一環として、グランフロント大阪北館３階のナレッジキャピタル「Active Lab」において兵庫医療大学の企画展示を行いました。

この「大学都市KOBE ！発信プロジェクト」は、“大学都市”神戸の魅力向上を目指すとともに、産学による新たなコラボレーションの促進のため、市内の７大学と神戸市がタッグを組んだプロジェクトです。その取り組みの一環として、１年間にわたってそれぞれの大学が順番に、大学での学びや研究を展示・紹介することになり、本学は７大学中の一番手として出展しました。

テーマは「学び！研究！医療のぞき見～医療総合大学から未来へ発信！～」で、各学部学科による研究成果や本学が掲げる「チーム医療」をはじめとした特徴的な学びを常設展示しました。土日祝には漢方茶試飲会（薬学部）、乳房セルフチェック（看護学部）他、口コモ度テスト（理学療法学科）、認知機能チェック（作業療法学科）などの日替わりイベントも開催し、特にゴールデンウィーク中にはお子さんから年配の方までたくさんの方に体験いただきました。少しでも兵庫医療大学のことを知ってもらえるような機会になったのではないでしょうか。来年の３月下旬から４月下旬にかけて、再度出展する予定です。

学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会 開催

平成２６年４月２６日に全学部、全学年の在学生を対象とした「学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会」を本学体育館アリーナにおいて開催しました。本会は、在学生が就職先となる様々な医療機関の方々から直接お話を伺うことで、今後明確な目標をもって勉学や就職活動等に取り組むために、毎年就職サポートの一環として行っているものです。

当日は、薬学部４１名、看護学部５２名、リハビリテーション学部理学療法学科５５名、作業療法学科６２名の計２１０名の学生が参加し、５５の医療機関等から１５９名のご担当者に説明を行っていただきました。参加した学生はブースでそれぞれの医療機関等の説明を熱心に聞き、積極的に質問をしていました。

学生からは「今後実際に病院見学等にも行ってみようと思った」「講義で教わる病院の内容よりも、もっと詳しく仕事・現場の話を伺う事が出来た」という声が聞かれ、アンケート調査の結果９８％の学生から「参考になった」との回答がありました。また医療機関の方からも「低学年次の学生さんも説明会に来られていたので将来が楽しみです。今回は看護の学生さんを対象に参加しましたが、薬・リハビリテーション学部の学生さんにも来ていただいたので、今後も参加したいと思います」などの感想がありました。

ＢＬＳ講習会 開催

平成２６年４月１２日、Ｍ４８７会議室において新入生を対象に「ＢＬＳ講習会」を開催しました。

新入生はアドバイザーグループ単位に分かれ、「心肺蘇生が実施できる」「ＡＥＤの使い方が分かる」「ＡＥＤを用いての心肺蘇生が実施できる」ことを目標にＢＬＳ実技講習を行いました。

まず担当教員より、ＢＬＳの概要について説明があり、心肺蘇生（胸骨圧迫＋人工呼吸）の実技から開始しました。その後ＡＥＤを用いて、音声ガイドに従いながら使い方を確認し、心肺蘇生を行いました。学生たちは大きな声を出して、お互いに声を掛け合うなど積極的に参加し、真剣に取り組んでいました。

最後に担当教員から今後ＢＬＳが必要となる状況に居合わせた場合、今回の講習会で学んだことを思い出し、学内外を問わず、医療職を目指す学生として勇気を持って行動してほしいとの話がありました。

平成２６年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）交付内定一覧

下記のとおり、平成２６年度は４４件　総額６６，４３０千円（うち直接経費５１，１００千円、間接経費１５，３３０千円）の交付が内定しました。

なお、平成２５年度は４３件　総額７４，６２０千円（うち直接経費５７，４００千円、間接経費１７，２２０千円）でした。

（単位：千円）

研究課題名	所属部局	研究代表者	交付内定額	
			直接経費	間接経費
基盤研究（Ｂ）				
集団感染予防のための環境を汚染しない陰部洗浄とおむつ交換技術の開発	看護学部	土田 敏恵	2,400	720
病院・在宅療養を支援するリウマチ看護の質を担保するアプローチ方略の開発と促進	看護学部	神﨑 初美	2,500	750
基盤研究（Ｃ）				
疾患による免疫系の活性化が肝薬物代謝酵素の機能に及ぼす影響	薬学部	九川 文彦	500	150
臨床検体に基づく実践的生体分子を標的とする天然由来分子標的抗がん剤の探索	薬学部	青木 俊二	600	180
規則性ナノ空間光触媒の創製とラジカル化学的CO2固定化反応への展開	薬学部	甲谷 繁	700	210
HGFディスプレイ乳酸菌によるGVHDの制御	薬学部	岩崎 剛	800	240
炎症性腸疾患薬のファーマコゲノミック・バイオマーカーの機能的探索及び活用法の提案	薬学部	大野 雅子	700	210
慢性心不全における鉄代謝異常の検討	薬学部	辻野 健	1,000	300
慢性閉塞性肺疾患患者の急性増悪の予防・対処行動に関する測定尺度の開発	看護学部	松本 麻里	900	270
父親・母親に対する産後うつ病予防統合プログラムの開発	看護学部	西村 明子	1,400	420
色弱に配慮した服薬安全に資する「服薬トレー」の開発研究	薬学部	石崎 真紀子	600	180
医療過誤防止と服薬アドヒアランス向上に資する医薬品カラーデザイン戦略の確立	薬学部	前田 初男	1,100	330
定常型社会におけるケアとそのシステム	共通教育センター	紀平 知樹	1,100	330
要介護高齢者の嚥下障害と服薬方法に関する研究	リハビリテーション学部	野﨑 園子	1,300	390
ラジカル反応プロセスの触媒化研究	薬学部	宮部 豪人	1,200	360
C型肝炎ウイルスとマラリア原虫の肝特異的発現蛋白質が相互の増殖に及ぼす影響の解析	薬学部	長野 基子	1,300	390
リンパ節特異的な細胞動員シグナルによる免疫細胞の組織特異的動員と自己応答性の制御	薬学部	田中 稔之	1,200	360
神経因性疼痛における新規KチャネルとATPの役割に関する研究	薬学部	山本 悟史	600	180
学童保育における「学童保育版児童虐待対応マニュアル」の開発に関する研究	看護部	鈴井 江三子	800	240
在宅呼吸不全患者に対する身体活動量を高めるための新戦略	リハビリテーション学部	玉木 彰	2,300	690
分子ディスプレイを用いたマラリア経口ワクチンの構築とライブラリーの作製	共通教育センター	芝崎 誠司	1,600	480
ホルモン非依存的前立腺がんにも有効な新規PCA-1阻害剤の探索合成	薬学部	田中 明人	800	240
TRPチャネルを介したAMPキナーゼによる疼痛制御とその分子機構の解明	薬学部	戴 毅	1,500	450
JNCASTで評価した産後1ヵ月の「不妊治療後版母子相互作用促進プログラム」開発	看護学部	齋藤 雅子	1,300	390
中重度要介護者の在宅療養継続に向けた家族支援プログラムパッケージの開発と実用化	看護学部	堀口 和子	1,400	420
挑戦的萌芽研究				
ｍｉＲＮＡ発現プロファイルを用いた肝薬物代謝能の変動予測	薬学部	森家 望	500	150
まちの保健室ナースの看護力で形成する急病や災害に備えられるまちづくりと効果の検証	看護学部	神﨑 初美	1,000	300
コーチングソフトウェアを用いた「見て、気づき、考える」車椅子移乗技術指導への挑戦	看護学部	増田 富美子	700	210
サーモグラフィを体温管理に応用した基礎および感染症看護ケアシステムの構築	薬学部	芝田 宏美	900	270
脳卒中片麻痺患者のトイレにおける下衣上げ下げ動作の再獲得過程の解明	リハビリテーション学部	平上 尚吾	2,800	840

（単位：千円）

研究課題名	所属部局	研究代表者	交付内定額	
			直接経費	間接経費
母親の語りは家庭内に埋もれた夫婦間の子育て問題に《光》をもたらし得るか	リハビリテーション学部	有吉 正則	500	150
薬剤師の関与による薬剤投与補助器具の使用は患者QOLを改善させるか	薬学部	天野 学	2,300	690
高齢女性尿失禁患者への快適で漏れないおむつ装着技術の開発	看護学部	土田 敏恵	1,300	390
視線運動分析に基づく難易度の高い看護技術のトレーニングシステムの開発と評価	看護学部	網島 ひづる	1,900	570
若手研究（B）				
ベンザイン等の不安定化学種を活用した新規反応の開発とその応用研究	薬学部	吉岡 英斗	700	210
入院している小児の転倒・転落防止プログラム改訂版の作成とその効果の検証	看護学部	藤田 優一	600	180
老化制御シグナルによるタウリン欠乏センシング機構とサルコペニアにおける役割の解明	薬学部	伊藤 崇志	800	240
非可逆反応を利用した高感度かつ高選択的なカドミウムイオン蛍光プローブの開発	薬学部	塚本 効司	1,100	330
患者講師による学内教育プログラムの開発に関する研究	リハビリテーション学部	森 明子	200	60
高齢者の筋の同時活動戦略に着目した効率的姿勢制御機構の解明	リハビリテーション学部	永井 宏達	2,300	690
医療提供体制が医療施設間競争に及ぼす影響に関する空間計量分析	共通教育センター	西田 喜平次	900	270
研究活動スタート支援				
骨格筋電気刺激による新たな糖尿病運動療法の確立	リハビリテーション学部	宮本 俊朗	1,000	300
炎症性腸疾患に伴う内臓痛の発症メカニズムにおける免疫調節因子とTRP受容体の相関	薬学部	王 勝蘭	1,000	300
新型出生前診断に直面した女性の自己決定を支える看護：一般女性のニーズからの検討	看護学部	片田 千尋	1,000	300
計（44件）			51,100	15,330
			66,430	

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

（単位：千円）

助成団体名	研究課題名	所属部局	研究代表者	交付額
日本私立学校振興・共済事業団（学術研究振興資金）	人工抗体Affibodyの分子標的治療薬への応用	共通教育センター	芝崎　誠司	1,400
計（1件）				1,400

平成２７年度 入学試験

◆入学試験

推薦入学試験　専願公募制

試験日	平成26年11月1日（土）
募集人数	薬学部　医療薬学科　20名 看護学部　看護学科　25名 リハビリテーション学部　理学療法学科　10名 リハビリテーション学部　作業療法学科　13名
出願期間	平成26年10月14日（火）～平成26年10月23日（木）消印有効

推薦入学試験　公募制A日程

試験日	平成26年11月2日（日）
募集人数	薬学部　医療薬学科　15名 看護学部　看護学科　10名
出願期間	平成26年10月14日（火）～平成26年10月23日（木）消印有効

推薦入学試験　公募制B日程

試験日	平成26年11月29日（土）
募集人数	薬学部　医療薬学科　10名
出願期間	平成26年11月13日（木）～平成26年11月21日(金)

大学入試センター試験利用入学試験　前期日程

試験日	大学入試センター試験日
募集人数	薬学部 医療薬学科　7名 看護学部 看護学科　5名 リハビリテーション学部理学療法学科　2名 リハビリテーション学部作業療法学科　2名
出願期間	平成27年1月8日（木）～平成27年1月28日（水）消印有効

大学入試センター試験利用入学試験　後期日程

試験日	大学入試センター試験日
募集人数	薬学部　医療薬学科　3名 看護学部 看護学科　3名
出願期間	平成27年3月12日（木）～平成27年3月20日（金）消印有効

一般入学試験　前期A日程

試験日	平成27年1月29日（木）
募集人数	薬学部　医療薬学科　35名 リハビリテーション学部　理学療法学科　20名 リハビリテーション学部　作業療法学科　17名
出願期間	平成27年1月8日（木）～平成27年1月21日（水）消印有効

一般入学試験 前期日程

試験日	平成27年1月30日（金）
募集人数	看護学部　看護学科　50名
出願期間	平成27年1月8日（木）～平成27年1月21日（水）消印有効

一般入学試験　前期B日程

試験日	平成27年1月30日（金）
募集人数	薬学部　医療薬学科　25名 リハビリテーション学部　理学療法学科　8名 リハビリテーション学部　作業療法学科　8名
出願期間	平成27年1月8日（木）～平成27年1月21日（水）消印有効

一般入学試験　前期C日程

試験日	平成27年2月15日（日）
募集人数	薬学部 医療薬学科　15名
出願期間	平成27年2月2日（月）～平成27年2月9日（月）消印有効

一般入学試験　後期日程

試験日	平成27年2月28日（土）
募集人数	薬学部 医療薬学科　10名 看護学部 看護学科　7名
出願期間	平成27年2月16日（月）～平成27年2月23日（月）消印有効

入試についてのお問い合わせ

入試センター　TEL：078-304-3030
E-Mail：nyushi@huhs.ac.jp

研究 REPORT リポート

こんな人 メモ

大阪府吹田市出身。看護学校を卒業し、病院での勤務やアメリカ留学を経験した後、大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 博士課程（看護学）を修了。同大学出身だった松田前学長の誘いもあり、学校法人兵庫医科大学の教員となる。

専門は、創傷・ストーマ（人工肛門や人工膀胱）・失禁などの皮膚・排泄ケアと感染管理。研究の傍ら、平成18年に皮膚・排泄ケアに関わるナース6名で結成した「ストーマ・イメージアップ・プロジェクトチーム（SIUP）」で、ストーマが正しく認知されるための活動も行っている。

趣味は探し中だが、幼い頃に祖母とよく観た「吉本新喜劇」が今でも好き。院生時代に始めたスイミングでは、泳いでいる最中に「今脂肪が燃えているな♪」と達成感を感じる瞬間が楽しいという。好きな言葉は「人生±ゼロ」。悪いことがあってもまた必ず良いことがあると信じ、常に前向きに物事を考えるバイタリティの持ち主。

患者さん、そして、看護師の幸せのために

看護学部 看護学科 教授　土田 敏恵

患者さんに教えられた専門知識の重要性

高校を卒業後、看護学校で病院実習を受けていた時のことだった。自分が担当していたことのある患者さんが亡くなられた際、遺族である奥様から意外な言葉をいただいた。

「主人のエンゼルケアを、土田さんにお願いできませんか？」

まだ看護学生として実習中、しかも家族でもない自分が、大切な死後処置を担当しても良いのだろうか…。迷いが頭をよぎったが、それ以上に、人として深く信頼していただけたことが本当にうれしかった。「私は一生、看護の道を歩もう」、心の中でそう誓った――。

現在、兵庫医療大学で基礎看護学（技術・感染）を担当する土田敏恵教授。「手に職を得られるから」という理由で、幼い頃から看護師という職業に興味を持ち、高校を卒業後、看護学校へ入学。卒業後に、看護師として勤務を始めた時、臨床の現実を突きつけられるような事件が起きた。病気の関係でストーマ（人工肛門や人工膀胱）をつけることを余儀なくされた患者さんが、術後の経過が思わしくなかったこともあり、夜中に院内のトイレで自殺を図ったのだ。

幸い一命は取りとめたものの、看護師として一生懸命患者さんをケアしていたつもりだっただけに、自らの力不足を痛感した。

「ストーマにショックを受けていた患者さんのために、もっと自分にケアできることがあったのではないだろうか…。きちんとストーマについて学ばなければ、このままでは看護師として何もお役に立てない」

一念発起、病院に留学の許可をもらい、人工肛門・人工膀胱のケアに関する最先端の知識を学ぶため、単身アメリカへと渡った。

迷っている看護師のためにスタンダードを作りたい

帰国後は、「創傷」「ストーマ」「失禁」などの皮膚・排泄ケアと感染管理を専門とする看護師として活躍する道を選択。その経験を活かし、大学教授になった現在は、臨床看護師の技術に関する内容を研究している。

具体的なテーマは、「下痢便時のオムツ交換や陰部の洗浄について」「尿漏れを防ぐ正しいオムツのつけ方について」など。いずれも研究テーマとしては一見地味にも見えるが、臨床現場で勤務する看護師にとっては成果が待ち遠しい大切な内容だ。なぜなら、排泄物の処理などについては、これまで国内外でほとんど研究が進んでおらず、現状、臨床看護における正しい手法やスタンダードが存在しないからだ。

どれぐらいのお湯の量で、どのように陰部を洗浄するのが最適か？どのような角度でオムツを当てれば快適で、尿漏れが少ないか？オムツに付着した排泄物から病原菌が広がる危険性も十分にあることを考えれば、感染予防のためにも一日も早い研究成果が期待される。また、日本製のオムツは非常に高品質だと言われるが、それを扱う看護師に技術がなければ、患者さんに快適さは提供できない。

「看護師の技術が高まれば、患者さんはもっとハッピーになるはず。自分の排泄物というのは、誰でも他人には見せたくないものですが、そのケアまでさせてもらえるぐらい厚い信頼をいただける職業なんて、看護師だけだと思います。そんな皆さんが、自分の仕事にやりがいを持ってケアをできるような、役に立つ研究をめざしていきたいですね」

患者さんの幸せのため、そして何より、看護師の幸せのために――。熱き思いを胸に、すべての人が笑顔になるような看護の未来を描き続ける土田教授の姿がそこにある。

副院長（診療体制担当、教育研修体制担当）就任挨拶〈6月1日就任〉

内科学消化管科
三輪 洋人

この度、難波病院長のもとで診療体制、教育研修体制担当の副院長を拝命しました。また同時に内科部門長の重責を仰せつかりました。高度に進歩した医療を提供する大学病院の診療においては、各診療科の独自の努力だけでなく、その有機的な結びつきが必要です。内科はその中心的役割を果たしていくべきであると考えておりますが、まずその一体感を強固なものにすること、次に病院内の各科の連携をよりスムーズにすることによって患者さんにやさしい質の高い医療の提供を目指したいと思います。このことがさらなる患者数の増加、病院収益の増加につながることが期待されます。また、よりよい教育研修プログラムを提供することは大学病院のみならず法人の将来を握る重要な課題と認識しております。宮本副院長と力を合わせてこの問題に全力で取り組んでいきたいと思います。

まだまだ若輩の私ですが、諸先輩や教職員の皆様のご協力を得ながら、力を尽くす所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

脳卒中センター長 就任挨拶〈4月1日就任〉

脳神経外科学
吉村 紳一

平成２６年４月、兵庫医科大学に脳卒中センターが新設され、センター長を拝命致しました。私は脳卒中の急性期治療に積極的に取り組んでおり、この度の就任を光栄に存じております。

さて、ここ阪神地区においても多くの方が脳卒中を発症しており、より良い受け入れ体制が求められています。当科では平成２５年末に「脳神経外科ホットライン」を開設し、２４時間３６５日、絶対に急患を断らない体制を構築しました。診療においてはできる限り体にやさしい治療法を行うようにしており、急性期脳梗塞の血管内治療数は全国トップレベルです。多くの脳卒中患者さんを受け入れるようになったため、この７月より脳卒中ケアユニット（ＳＣＵ）を９床設置することとなりました。

脳神経外科医、神経内科専門医を中心に構成される多職種チームで、急性期管理のさらなる充実を目指します。ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合診療センター長 就任挨拶〈4月1日就任〉

内科学総合診療科
森本 剛

兵庫医科大学病院は特定機能病院として高度で専門性の高い医療を提供しています。また、多くの専門診療科を有し、あらゆる患者さんの診療に対応しております。一方で、最初に受診すべき診療科が分からない場合も少なくありません。同時に複数の専門診療科を受診することは、時間も医療資源も無駄になり、患者さんにとっても専門医にとっても非効率です。そのような患者さんの診断及び初期診療を安全かつ効率的に行う専門部門として本年４月１日に総合診療センターが設立されました。

総合診療センターでは、患者さんの症状を詳細にお伺いし、全身の診察を行い、様々な専門領域の病気の可能性を詳細に検討した上で、必要な検査や初期治療を行います。専門的な検査や治療が必要と判断されれば、速やかに専門診療科に紹介いたします。

同時に、本学のプライマリ・ケア教育部門として、医学生・研修医に対して系統的な外来診療教育を行っております。すべての診療科の先生方や医療スタッフのご協力を得ながら、安全・安心な医療の提供、優れた臨床医の育成に尽力したいと考えております。何卒、ご指導の程御願い申し上げます。

腎移植センター長 就任挨拶〈4月1日就任〉

泌尿器科学
野島 道生

この度、腎移植センター長を拝命いたしました泌尿器科の野島です。当院および兵庫県における移植医療発展を目的として２０１１年に兵庫医科大学腎移植センターが発足し、腎不全治療にかかわる泌尿器科・腎透析内科・小児科が協力して移植診療にあたっています。兵庫医科大学における腎移植の歴史は古く、１９８３年に第１例目の生体腎移植と献腎移植を実施し、現在までに合計２９２例の腎移植を行っています。腎移植後の予後も良好で、移植腎５年生着率９７％、１０年生着率８５％と全国平均を上回る成績を残しています。

腎移植を希望する多くの患者さんに対し、できるだけ早期に移植を実施するとともに長期生着、長期生存をさらに進めるため、地道で丁寧な診療を心がけ、兵庫医大の伝統を引き継ぎながら発展させるよう努力いたします。今後ともご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

炎症性腸疾患外科 診療部長 就任挨拶〈4月1日就任〉

外科学炎症性腸疾患外科
池内 浩基

４月より、炎症性腸疾患外科として新たにスタートしました。診療内容は従来の炎症性腸疾患（ＩＢＤ）センターでの診療と同じです。ＩＢＤの症例は潰瘍性大腸炎（ＵＣ）、クローン病（ＣＤ）ともに、右肩上がりの増加を示しており、特にＵＣの患者数は１４万人を超え、特定疾患とは言えない状況です。兵庫医科大学は内科の故下山 孝教授、第二外科の宇都宮譲二教授の時代から本邦において、中心的な役割をはたしてきました。現在はＩＢＤセンターとして、外科と内科の垣根を低くして診療にあたっています。炎症性腸疾患内科とは毎週のカンファレンスを通して、患者さんにとってどのような治療法が最も適切かを検討しています。

外科医不足は深刻な状況ですが、現在少ないながらもＩＢＤを選択してくれる若い外科医もいます。伝統を次の世代に伝えていくのも我々の役割であると考えています。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

炎症性腸疾患内科 診療部長 就任挨拶〈4月1日就任〉

内科学炎症性腸疾患内科
中村 志郎

本年４月より新設されました炎症性腸疾患内科の診療部長を拝命いたしました中村志郎です。炎症性腸疾患は消化器分野の代表的な難病で、本邦におきましてもライフスタイルの欧米化と伴に年々患者数が増加してきており、日本の今後を担う若年の方を中心に好発することから社会的にも大きな問題となっています。本学には建学以来の長きに渡り、内科・外科ともに本疾患の診療において高い専門性を発揮してきたすばらしい歴史があり、国内屈指の専門医療機関として社会的に広く認知されています。患者さんからの信頼も厚く、昨年度の厚労省や読売新聞の調査によると、本学の炎症性腸疾患患者数は外来および入院ともに全国一位と公表されていました。

今後も、このすばらしい伝統を継承し、さらに質の高い医療が提供出来るよう炎症性腸疾患外科ともより緊密に連携し、スタッフ一同力を合わせ努力してまいりたいと思いますので、何卒、ご指導とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

臨床検査技術部長 就任挨拶〈４月１日就任〉

臨床検査技術部
戌角 幸治

平成２６年４月より臨床検査技術部長を拝命いたしました。前任の難波副院長が病院長に就任され、その後任として臨床検査技師としては初めての部長職に就くことになりました。

臨床検査技術部は、中央診療施設の臨床検査部、病院病理部、輸血部、超音波センター、臨床遺伝部の５部署に配属されている臨床検査技師等を統括して構成しています。そして大学病院としての従来の専門性を高める教育のみならず、臨床検査全般にわたる最新知識をすべての臨床検査技師が共有し、さらに検査技術部として放射線技術部との合同症例検討等も行うことが出来るようになりました。また、新人を一括採用して、すべての検査室を経験させて、本人の特性を把握した後に適切な配属先に就かせる教育プログラムを実施します。この様に専門性重視だけでなく、広い見方の出来る技師を養成していく部としていくつもりです。至らぬ点もあるとは存じますがご指導のほどよろしくお願いいたします。

放射線技術部長 就任挨拶〈４月１日就任〉

放射線技術部
坂本 清

病院では、様々な職種のメディカルスタッフ(医療専門職)が働いています。「チーム医療」が提唱されて久しくなりますが、チーム医療とは、一人の患者さんに複数のメディカルスタッフが連携して治療に当たることであり、患者さんもチームの一員として捉えられています。私たち診療放射線技師もその一員として、X線撮影、CT検査、MRI検査、血管造影検査、放射性同位元素を用いた検査、放射線治療といった大型医療機器を扱う仕事と放射線利用に関する安全管理などに携わっています。

放射線技術部では、昨年度まで医師が部長を務められておりましたが、この度、放射線技師である私が部長に就任することになりました。放射線診療に関わる専門家として、皆様に安心して診療して頂ける環境を提供しながら、チーム医療を推進してまいりたいと思います。放射線被ばく、MRの安全性等、疑問をお持ちのことがございましたら、お気軽に声を掛けてください。よろしくお願い申し上げます。

一日「まちの保健室」を開催しました

ナイチンゲールの誕生日にちなみ、５月１２日は「看護の日」とされています。今年度は、５月１１日からの１週間を「看護週間」とし、全国各地で看護の日記念行事が行われました。

兵庫医科大学病院では、５月１７日の午後に、早めの健康チェックで生活習慣病を予防して頂こうと、地域の方々を対象とした一日「まちの保健室」を開催しました。１号館１階のロビーで、約２０人の看護師が、血管年齢、骨密度などの体組成や呼気中の一酸化炭素量を測定し、結果を元に保健指導を行いました。初めての試みでしたが７５名の参加があり、参加者から「いろいろ測定できてよかった、これからはもっと健康に気を付けたい」との感想が聞かれました。

また、看護週間の期間中、１号館１階東玄関、８号館と１号館間の３階渡り廊下で、各部署の看護師たちが自分たちの看護を紹介した壁面展示も行い、手作りのポスターが患者さんの目を楽しませました。

体組成を測定する様子

禁煙指導の様子

渡り廊下の壁面展示

兵庫医科大学病院

小児病棟患者さん向けのイベントを開催しました

平成２６年３月２７日、特定非営利活動法人日本クリニクラウン協会の協力の下、クリニクラウンのトンちゃんとポリタンによる小児科病棟・ＮＩＣＵ病棟訪問が行われました。ハーモニカ演奏や皿回しをはじめ、みんなで協力して行うゲームなどで楽しみました。

また、５月２２日には子どもNPO・子ども劇場全国センター主催の「ホッとアートプレゼント」の一環で、特定非営利活動法人兵庫県子ども文化振興協会の協力の下、演劇集団「円」の方々にお越しいただき「どうぞのいす」の公演を行っていただきました。お芝居と歌遊びを交えて物語が進み、子どもたちは目を輝かせながら聞き入っていました。

子どもたちの笑顔に、ご家族やスタッフも元気いっぱいのパワーを受け取ったようでした。

クリニクラウンと記念撮影

「どうぞのいす」公演

公演後の記念撮影

病院運営方針説明会および平成２５年度 病院活動費配分

平成２６年５月２８日、3-３講義室にて「病院の運営方針」説明会が開催されました。説明会では難波病院長より、兵庫医科大学病院の運営方針や、それに対する取り組みなどの説明がありました。

説明会に先立ち、病院各部署の平成２５年度功労によって病院活動費が配分されることをうけ、難波病院長より該当部署への表彰が行われました。各部署が明確な目標をもち、目標達成に向けて日々の業務に取り組めるよう、インセンティブとして病院活動費の配分を行っています。配分が行われた部署は次の通りです。

項目	該当部署
診療科 稼働率	脳神経外科、リウマチ・膠原病内科、肝・胆・膵内科
病棟 稼働率	EICC、NICU、11東病棟、7西病棟、ICU、13東病棟
病床回転数	HCU、10-6病棟、10-9病棟、救急
新患率	産科婦人科、消化管内科、救急科
手術実績	眼科、上部消化管外科
手術への協力部署	手術センター
文書作成実績	整形外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、精神科神経科
特別功労部署	12階病棟、医事課MA係
チーム医療活動	感染対策チーム、褥瘡対策チーム、 栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、 呼吸ケアチーム、精神科リエゾンチーム、 エコーガイド下CVC挿入推進チーム、 救命処置(BLS・ALS)推進チーム